

朝来市総合計画審議会 第1回 会議録

- 開催日時 令和6年8月23日（水）14時00分～16時30分
- 開催場所 朝来市役所本庁舎 3階 庁議室
- 出席者の氏名

	出席者	欠席者
委員	岡田 絵美	小島 公明
	絹巻 泉	中島 しのぶ
	草郷 孝好	
	篠岡 昌代	
	篠原 佳也	
	下口 光子	
	中島 英樹	
	中西 光彦	
	西垣 佳生	
	西村 順二	
	羽瀨 真奈	
	藤原 真紀	
	村上 和男	
	山下 太一	
吉原 剛史		
事務局 (企画総務部総合政策課)	企画総務部長 澤田 学	
	企画総部部次長 松本 昭浩	
	総合政策課長 和田 幸司	
	総合政策課副課長 馬袋 真紀	
	総合政策課上席主査 小山 亮介	

- 傍聴者 なし
- 会議
- 1 開会

定刻になりましたので、第1回朝来市総合計画審議会を開催します。

2 委嘱状の交付

藤岡市長から草郷委員へ代表交付。

その他委員は、机上配布にて委嘱状の交付に代える。

3 あいさつ

皆さん、こんにちは。

日頃は、朝来市政の推進に多大なる御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、第3次総合計画が令和7年度で計画期間の半期を迎えることから、令和8年度からの4年間を計画期間とする第3次朝来市総合計画後期基本計画を策定するにあたり、諮問機関として、朝来市総合計画審議会を設置いたしました。皆様には、快く、委員をお受けいただき、感謝申し上げます。

朝来市は、平成17年に朝来郡の4町合併で誕生し、第1次総合計画では、市民の一体感の醸成を図りながら、市民自治のまちづくりの確立に向けて取り組んできました。そして、第2次総合計画では、人口減少社会に対応すべく、人口政策を最重要課題として位置づけ、全国に先駆けて人口政策に取り組んできました。そして、現在の第3次総合計画では、「人と人がつながり 幸せが循環するまち～対話で拓く朝来市の未来」を目指す将来像とし、市民一人一人が幸せを実感することで、まち全体が幸せであふれるまちとなるように、市民の皆さんや市議会、そして行政が対話を通じて互いの立場や考えを大切にしながら、市民主体のまちづくりを進めているところです。

委員の皆様におかれましては、専門的な見地や市民視点により、朝来市の将来像について忌憚のない御意見いただきたく存じます。

総合計画は、行政運営のためだけの計画ではなく、市民の皆さまとともに、どのような朝来市を創っていきたいのかを一緒に考え、そして、その将来像に向かって一緒に取組を進めていくための計画であると思っておりますので、委員の皆様には大変お世話になります。御協力賜りますようお願い申し上げます。冒頭のあいさつとさせていただきます。

4 委員の紹介（自己紹介）

各委員から自己紹介後、事務局職員及び策定支援事業者から自己紹介。

5 会長及び副会長の選出について

朝来市総合計画審議会条例第5条の規定により、会長及び副会長を委員の互選により決定することを事務局より説明。事務局から提案することになり、事務局から会長、副会長を指名する。

会長に関西大学社会学部教授の草郷孝好委員、副会長に甲南大学経営学部

教授の西村順二委員を指名し、委員の拍手により承認を得る。

草郷会長の就任あいさつ

前回に引き続き朝来市の計画を生かしていくための舵取りとして審議会を運営していきたい。委員の皆さんの自己紹介を聞き、様々な経験をされているユニーク、つまり、いい意味でおもしろい人が集まっていることが分かった。おもしろさを詰め込んでいこうという形でできたのが第3次総合計画であるが、後期をどうしていくのかについてはさらに多様な視点が必要だと思っている。朝来らしい Well-being な審議会になればと思っているので、ご協力をお願いしたい。

6 諮問

藤岡市長が諮問書を朗読した後、草郷会長に手渡す。

7 審議

(1) 総合計画審議会の運営について

事務局 <資料4、参考資料1、参考資料2>

審議会の運営基準等について説明。

- ・会議は原則公開とする。
- ・会議録作成要領に基づき会議録を作成する。
- ・市民の皆さんへ周知を図ることを目的に、会議録作成後は、会議資料及び会議録は市ウェブサイトに掲載する。

西村副会長

会議録を「調製する」と記載があるが、誤字ではないか。

事務局

公用文ではこの表記となる。

草郷会長

資料4の運営基準「5 その他」の(2)文末、「もととします。」と記載があるが、「ものとしませう。」の間違ひではないか。

事務局

指摘のとおり。資料の修正を依頼。

(2) 第3次朝来市総合計画の現状の共有と審議会の審議事項及びスケジュール

事務局 <資料5>

総合計画と策定スケジュールについて説明。

- ・総合的かつ計画的な市政運営を図るために総合計画を策定する。
- ・令和7年度末に計画期間の半期を迎えることから、基本計画の見直し

を行う。

- ・今回の見直しに合わせて、昨年計画期間を1年間延長した創生総合戦略の見直し時期を総合計画の更新時期に合わせ、次期の創生総合戦略についても包含した後期基本計画とする。
- ・これまでの朝来市のまちづくり、第3次朝来市総合計画は、対話と協働を大切にしながら取り組んできた。
- ・市民アンケートの結果から設定する指標については、すべての項目で下降傾向にあるが、継続して市民の幸福度が高まるように取組が必要である。
- ・人口指標については、令和2年度の国勢調査の内容を反映し、当初の人口目標と近い数値となっていることから、引き続き、社会移動率と出生率を10%高めた数値を目標とする。
- ・審議会は、令和6年度に2回程度開催し基本構想の政策指標、人口指標や重点政策を、令和7年度には3回程度開催基本計画のありたいまちの姿に定める35施策を審議する予定。

委員

総合計画は一般的には10年間の計画だが、朝来市ではどうして8年間なのか。

事務局

計画期間は、自治体に任されている。朝来市は、市長のまちづくりに対する想いを反映させながら市政運営を図るために、市長の任期4年間に合わせて総合計画を8年間に設定した経緯がある。

委員

創生総合戦略については、5年の計画と認識しているが、総合計画の計画期間とずれてしまうのではないか。

事務局

市の計画期間を、国の計画に合わせる必要はない。今回の総合計画の見直しに合わせて、創生総合戦略についても統合していくため、創生総合戦略の計画期間は、総合計画の計画期間とさせていただく。

(3) 将来像、基本構想について（グループ対話）

①あさご未来会議、職員プロジェクト会議の意見を踏まえながら、朝来市のまちづくりに必要な追加の視点（欠けている視点）について

事務局 <資料6>

Well-beingが高まり広がる市民参画に向けて～市民一人一人のWillを育み応援する「共創のまちづくり」のポイントと取組みのヒント～について

て説明。

②グループ対話

あさご未来会議や職員プロジェクト会議の意見を踏まえながら、朝来市のまちづくりに必要な追加の視点(欠けている視点)について対話を行う。

③全体共有

各グループから対話の内容について発表。対話の内容は、別紙の通り。

④総括

西村副会長

対話お疲れ様でした。各班ともにおもしろい意見が出されていた。情報をどのようにして収集し、情報のインベントリー(在庫)をどのように増やしていくか。情報を編集する必要がある。

外部の目を意識する必要があるという意見が多く出されていた。若者視点など、一回俯瞰してみることが大切。いろいろな人との交流、異質な人との交流が大切ではないか。学生に指導するときにイノベーションが大事だという話をよくする。イノベーションは、異質と異質がぶつかり合ったときに発生する。同質的な仲間といっても、イノベーションは起こらない。ヘテロジェニアス(異質)な人と交流することでイノベーションは起こる。まさに、外部の目線の大切さではないかなと感じた。

またある班の、Willへのパスが多様であること、人によってはちがうということ、アクセスしやすくして帰属しやすくするためのきっかけ作りが必要だという意見があった。その通りだなと感じた。

私自身気がかりなことがある。それは、人口減少について。今年の5月に見込みが出され、消滅可能性都市に朝来市が上がっていた。その情報に振り回される必要はないが、朝来市は消滅可能性自治体と言われたことに対して、どう対処するのかという視点についても検討が必要なのではないか。20歳から39歳までの女性の数が、2050年時点で現状の50%以下になる状態が良くないと示されていた。朝来市は常時そういった対象に目配りをしなければいけない。

そういった中で、朝来市は中高生の元気がすごくあると聞いている。そうであれば、今からその世代を大切にしていく必要があるのではないか。朝来市の良さを、その世代にどんどんと教え込むことで、進学などで一時的に都市部に出たとしても、帰ってくるのではないか。そういった仕掛けを意図的にやっていく必要があるのではないか。

最初に話したが、人口減少の問題を考える際には、イノベーションという考え方が必要になるかもしれない。イノベーションと聞くと高度な技術革新とイメージするかもしれないが、技術だけではなくプロセスのイノベーション、組織のイノベーションを考えることで、何かできるかもしれない。あと、

アナログな部分を残しながらも、この時代の DX や AI を活用した方法を検討することも有効かもしれないと感じた。

草郷会長

3つの班で対話を行っていただいたが、それぞれの模造紙を見ると、1つの班は、「重要」を示すピンクの用紙が多いことが視覚的に分かる。また、各班ともにさまざまな表現が存在している。これが、いわゆる「多様性」にあたる。これら3つの班から出された意見をまとめてみると、対話でカバーできない盲点が少なくなるかもしれない。これがグループ対話の一つの狙いだった。

皆さんの対話を伺っていて、3つほど新たな視点を感じた。1つ目は、まちをつないでいく人の大切さ、この人をどのようにして作っていくかが課題という話があった。この点の重要性については、認識しているが、そういった人材を育成していくことに具体的な課題が見えてきたのではないかと思う。2つ目は、あるもの探しという視点。これは、地元学の中でも私はよく使う言葉だが、確かに大切な視点である。この朝来市にはさまざまな「あるもの」がある町なので、朝来市民みんなで確かめてみる必要があるのではないかと思う。また、市民アンケートで「幸福度が低い」と答えた市民の皆さんに対しても目を向けているよという視点が必要ではないか。その幸福度が低い市民に視点をあてる方法をどう仕組み化するかが、今後の課題ではないかと感じた。最後に3つ目として、未来会議になかなか参加してくれないみなさんの意見はここに出てくることはない。だからといって意見をいただいていないから放置すればいいものではない。そういった皆さんの意見を拾い上げるよう仕組みがあるのか。なければ、どうすればいいのかを考える必要があるのではないか。

最後に「朝来市ってなにか。に対して、胸を張って言えるものがあることが大切。」という意見があったが、帰属感を大切にすることが本当に大切。私は、第3次朝来市総合計画の表紙のイラストを気に入っているが、今日の皆さんの対話を踏まえると、この絵では足りないように感じる。今後の審議会や未来会議の対話によって、この絵がどう描き変わっていくか期待したいし、再度皆さんに、朝来市がどのように変わっていけばということをぜひ考えていただきたい。この絵は平面だが、皆さんの意見を伺っていると、様々な視点があったので、立体的に見えていくはず。皆さまには継続して様々な角度から、朝来市の未来について考えていただきたい。

8 その他

次回の会議開催日程を連絡。

- ・ 第2回朝来市総合計画審議会 令和6年12月中旬予定
- ・ 第1回あさご未来会議 令和6年10月20日（日）10時00分から
- ・ 第2回あさご未来会議 令和6年11月17日（日）10時00分から

9 閉会

西村副会長

皆様大変お疲れさまでした。草郷会長から「朝来市の未来がどう変われば」ということを考えるようにと宿題が出された。私は、思いついたことはすぐメモに残すようにしているが、皆さんも忘れてしまう前にメモをとっていたらと思う。引き続き未来の朝来市をつくるために、皆さん協力をよろしくお願いします。本日は本当にお疲れ様でした。

A班	『足りない視点』	『重点的に取り組むべき事』
つなぐ場・つなぎ役	中高生の在住外国人、若い技能実習生など若者が集える場作り 学生から社会人へのつなぎの支援	若者の社会参加のきっかけづくり 高齢の方の社会参加のきっかけづくり
フリースペース、場 →多様な人・多世代交流	多世代の居場所。駅などに色々な人がふらっと行ける場所があれば。 中高生の移動手段・移動方法の支援。チケットだけで十分かな？ 属性別の集い対策（市）。自分に合った場所があることが大切。馴染めない人の居場所も必要。	
ゆるやかなつながり 切れずにつながりつづける	心が疲れた方の相談場所の確保。 地域の人に知られたくない、世間体が気になるという空気。 セーフティーネット。市だけに情報が集まるのではなく地域のキーマンも知っている。	
情報共有について	どこでどんなサークルがあるか分かりにくい→情報共有 同じ地域でも情報共有ができていない 情報源としてとりあえず見ているのはSNS、HP。加えて地域のキーパーソンからの情報。市の発信とズレ！？ つながりの大切さを伝える。 つながりは強み。つながりの大切さを伝える。朝来市の特長を伝える。	
「うちじゃないです」から 「とりあえず話聞きますよ」へ。	とりあえずここに！という窓口がわかりにくい。「やりた い！」くすぶっている人がたくさんいる→誰に相談したら良い か分かりやすい（場・人）→Will実現しやすい	
横つなぎの窓口やコーディネーターの存在	職員に大きな負担があるのではと心配→プライベートでなく業務として行う	

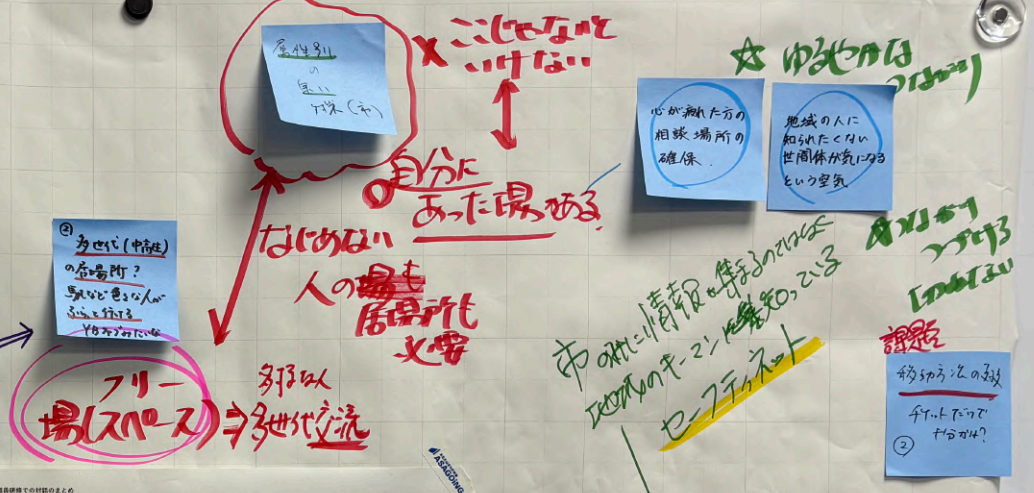
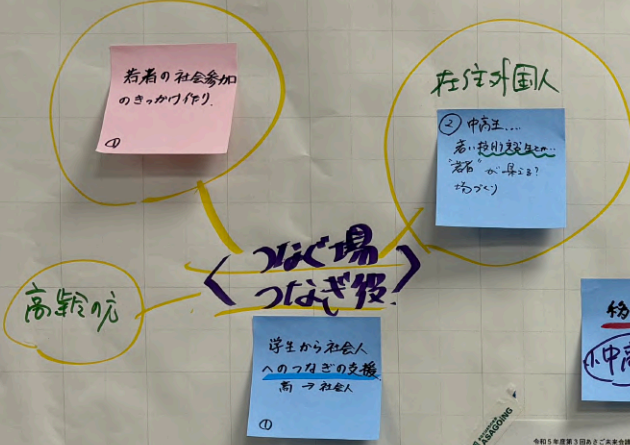
B班	『足りない視点』	『重点的に取り組むべき事』
あるもの探し	若者が就職時に帰って来たいと思うような魅力的な職場がない。	「あるもの探し」に取り組んでみるというのではないか。
	帰ってくるタイミングもいろいろある。(年代、時期、新卒/中途など)	都会の人から見ると、真っ暗な中で光る1両の電車が「ネコバス」のようだと言われたことがあり、当たり前なのが魅力なんだと感じた。朝来に住んでいない外の人から見た視点も大事ではないか。
	一度都会で働いて挫折を味わうことで、「ここには何も無い」という認識がかわるかもしれない。	まずは、外からの評価から地域の見直しを行うのがいいのではないか。
	学生るとき、地域のお祭りで「いつでもいいから帰ってこいよ」の掛け声が嬉しかった。帰る場所があるんだと思い、帰って来たいと思えた。	各地区の多世代とつながる場があればいいと思う。人が人を連れてくるので、面白い人や朝来の面白い大人ともしっかり出会えれば自然と人が集まってくるのでは。
	朝来市は地域おこし協力隊の定着率が高い。ということは何も無いはずなので、協力隊に地域の価値を語ってもらう会など、協力隊と一緒に何かできそうだ。 世代ごとの価値観を知ることが大切。若い人が参加してくれないと言うが、相手の年代の立場に立っているか。10代、20代の参加したくなるモチベーションは何か知り、誘い方を考えた方がいいのでは。	
コミュニティ同士のつながり		地元の人には全員子供時代からの知り合いで今更感があり、コミュニティとして関わりが薄い。一方で、「嫁に来た人たち」や協力隊などの外から来た人たちは積極的につながろうとするため、濃いコミュニティだと思う。そこをどう繋げるか。
		きっかけがあれば繋がりやすい。昔はお葬式で人とのつながりができたが、犬の散歩もきっかけになるかも。日役が該当そうだが、世代交代など課題もある。
		強制的だと嫌がられるし、でも「行かなあかん」じゃないと来ないというジレンマがある。おせっかいで「やろうよ！」と引っ張るような人の存在が重要だ。
多様な人の参画	寝たきり、足が悪い人の幸福度をどう考えるか。花火大会で、「どうせ土手まで行くからついでに連れていってよ」というシーンがあった。	
まずはSOSを出せること。そしてそのSOSを受け取れることが大事。SOSを出しやすい関係性にするにはどうすれば良いか。独居老人と子供たちでラジオ体操をやるような取り組みがあったが、あれはいいと思う。		
伝え方について	(ふれあい講師として) 特技を登録する仕組みがある。「特技」と言われると躊躇する。特技と言えるまでのレベルでないなどハードルがある。「趣味」など伝え方を変えて、楽しくできるものにする登録者が増えるのではないか。	

C班	『足りない視点』	『重点的に取り組むべき事』
個人が尊重される環境づくり	『Will』がある前提ではしんどい人もいる	活動に参加する時に、精神的な負担が少ない環境・仕掛け
	トップダウン、指示される方が楽な人、幸せな人もいる やりたいよりも、社会貢献のしやすさを高めるのが良い	個を活かすことで、一人一人のやりがいや役割がある状態に。
サイレントマジョリティの意見も大事	対話の場、居場所の定義に経済・社会の中核を担っている中堅層が入っていない。	中高年・若者が参加できる事業が大事。特に今参加できていない層にどう働きかけるかが大事ではないか。
	対話の場は、地域のヨコのつながりに偏っているのではない か、年齢や職業などタテの層も意識する必要がある。	関心はあるが機会のない人に、どう出てきてもらう機会をつくれるかが大事。
	シングルや中堅世代は、行政と一番関わる機会が少ない遠い存在	対話の場に、企業をご招待してはどうか。参加してもらいたい、意見を聞きたいという市の意思表示になる
	工業団地や商工会など、経済を支える中核人材が何を考えているかが大事ではないか。	
	一番儲けて、税金などで市に貢献しているが、まちとの関わりがない。	
仕事・経済の重要性	市民サービス等も働く人向けに検討がある（時間帯など）	
	経済は大切！（ここが市を支えている） 魅力的な働くところがあるかが大切	
帰属感	市民の行動のためには、帰属感が大事。	朝来市としての帰属感をどう育てるか。
	帰属感がある中で、役割があると良い。	
	市民はワインで、市がワイングラス。美味しいワインだけあっても飲めない。素敵なワイングラスがあって、美味しいワインがより楽しめる。	
	朝来市の人は頑固なところがある、まだまだ町単位・地域単位で、自分の地域以外は他所ごと。朝来市として自分ごとになっていない。 但馬地域で移住してくる人も多い、移住者にどう帰属感を持ってもらうか。	
地元の良いを伝える	高校でも「外に出ろ」と教えていた文化があった。	
	自分の好きな地元に戻る、地元で働くためのスキルや働き方を若者に伝えることが大事 外に出ても地元と関わる方法を伝えることが大事	
人材育成	止まることはあってもいいが、止まり続けることはダメ。若者に大人が意見してあげて、視野を広げてあげる機会が大切	
人がいい	遠方から朝来に通っているのは人がいいから	
	朝来の魅力は人の良さ	
地域と関わって幸せな状態	趣味と仕事と楽しみが一致していると幸せ	
居場所について	どんな居場所なのか、具体性がある方がもっと分かりやすくなる	
総合計画全体について	狙いはどこにあるのか。Who、What、Howをもう少し意識すべきではないか。	

A班

重点的

欠けている視点



令和5年度第3回あきごま未来会議及びあきごま未来会議を契機に議員研修での討議のまとめ
Well-beingが高まり広がる市民参加に向けて ~市民一人一人のWell-beingを育み応援する「共創のまちづくり」のポイントと取組みのヒント~

<p>① 市民一人一人のWell-being (やりたい) の実現 (人一人のつながり)</p> <p>子ども・若者から大人まで、いろんな人の参加が可能な場を大人から作るきっかけに、定例で開かれる市民参加の場。</p>	<p>② 市民一人一人のWell-being (やりたい) の実現 (人一人のつながり)</p> <p>気軽に集って話し合ったり、アイデアを出し合ったり、アクションにつながる「つなぐ」</p>	<p>③ 3次元的な市民参加の場 (人一人のつながり)</p> <p>3次元的な市民参加の場 (人一人のつながり) 実現することによって、市民一人一人のWell-beingを育み応援する。</p>
<p>④ 一人一人のWell-being (やりたい) を育み、応援しあおう! 実現して大丈夫、ゆる〜く、できる人ができることを。</p> <p>【アクションの場となるWell-being (やりたい) を育む】 - 市民一人一人のWell-being (やりたい) を育む - Well-being (やりたい) の実現に向けてのサポート - 地域でのアクション、ワークショップ、アンケートの調査 - 市民一人一人のWell-being (やりたい) を育む</p>	<p>⑤ Well-being (やりたい) を育み、応援しあおう! 実現して大丈夫、ゆる〜く、できる人ができることを。</p> <p>【市民一人一人のWell-being (やりたい) を育む】 - 市民一人一人のWell-being (やりたい) を育む - Well-being (やりたい) の実現に向けてのサポート - 地域でのアクション、ワークショップ、アンケートの調査 - 市民一人一人のWell-being (やりたい) を育む</p>	<p>⑥ Well-being (やりたい) を育み、応援しあおう! 実現して大丈夫、ゆる〜く、できる人ができることを。</p> <p>【市民一人一人のWell-being (やりたい) を育む】 - 市民一人一人のWell-being (やりたい) を育む - Well-being (やりたい) の実現に向けてのサポート - 地域でのアクション、ワークショップ、アンケートの調査 - 市民一人一人のWell-being (やりたい) を育む</p>

「やりたい!」
「できる人」
「つなぐ」

will 実現 (せよ)

世代交流の場

誰が誰と (場、活動) するの?

世代交流の場

情報の源

世代交流の場

will (やりたい) = 幸福度

「つなぐ」
「つなぐ」
「つなぐ」

世代交流の場

重点的

欠けている点

3 3 あるもの
1 探し
別の視点
当然前→魅力

地域の価値を語れる人会
協力隊限定(国)
なにもない(村)

世代間の価値観を知る。
参加村イベント? 20代?

電車(汽車)
↓
ネコバス
住環境が見える?

外からの評判
↓
地域の見直し

各地区の多世代
とつなげる場
(祭り会)

おもしろい人の出会う
居場所の確保

人が人を
つなげる

多様な人の参画

2 寝た利足が
若い人の幸福度
→ 花火大会
どうせ土曜に行か
ないから行か
ないで!

SOS 出せ
↓
SOS 受け取る

独居老人
子どもたち
ラジオ体操

草刈り
大の青芝刈
村のヒヤク

2 キック
づくり
昔はお葬式で
参列した

3 強制は
嫌がられる
『行かないよ』
いかにやるか

おせかい
やろうよ!
引くはる

どうつなげるか

家に来た
人たちの
コミュニティ
つなげる役割
積極性

子供時代の
大人との
関わり薄
(笑) (今更)

協力隊
外から来た人
同士の
つながり

3 特技と
参列

特技 さん...
→ 参列
楽しく (意味)
2 伝えたい参列?

魅力的な
職場
若者が来ると
思っている職場

どの
タイミング?
年代: 帰郷時期

一度
サセツを
味わう
若者には何があるか
→ 参列?

いつでも
いいから
帰ってこいよ
地域の祭り
帰る場所

C班

個人を尊重
(てくある) 環境づく

Will, たいし
しんぞいせい

Top Downの
おしな
きせはんせい

帰属感
大事
おちどけの役

市/市民
ワグス・フィル

朝平の
がニコな所
二市 ← 野に動く
我が意に
なっていない

移住者
→ 但馬地域で
移住して人
モの

サイレント
マジョリティ
の意見が大事

活動に参加
する際、に
精神的負担
が大きい環境
づくり

やりたい
よりも
社会貢献!

どんな居場所か
具体性が
もたれたい

場の負荷
子ども
中学生
その他XPT

中高生、若者の
参加による事業
特に、今参加して
ない層にどう働き
かけるか、

行政と一帯
遠い
シングルの中核
世代

工業団地
商工会
中の人材が
何処を求めている?

一番モチベーション
親と重なる
からと関係性

市民サークルと
住人同様に
(時間帯など)

企業に名前を
与える
と意見表明
したい
希望がある

機会が
ない

どう出て
もらうか?

野心的な
層は3
人

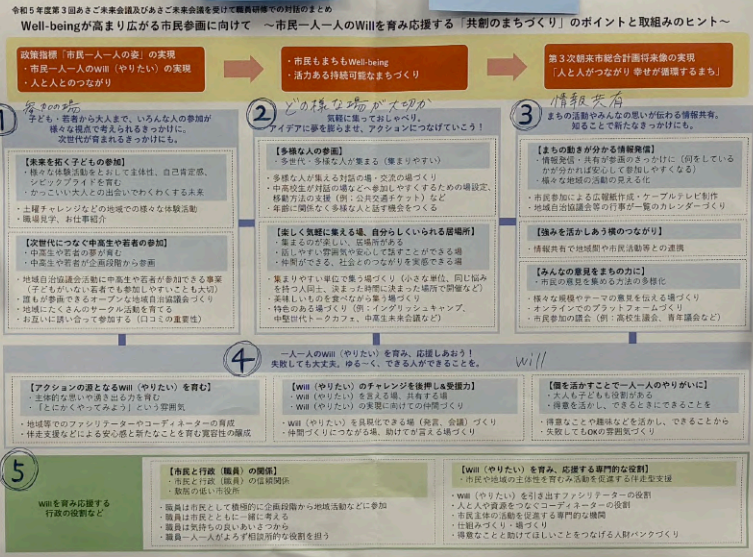
ケイサイ
大いじゃない

朝平は
いい人が多い
人

「止まる」
止らなければ
視野を広げよう

大い意見
出かける

狙いの
(Who
what
How)



外に出る
高松地域で
こたえ

地元で働く
地元に戻る
外に出る
地元で笑う

超喋り
仕事
本気
一週

相互に
一人一人の
役割